

報告事項

- (1) 第1回総合計画審議会の開催概要
- (2) 第1回総合計画審議会・作業部会の開催概要

(1) 第1回総合計画審議会の開催概要

平成26年度 南三陸町総合計画審議会（第1回）	
日 時	平成26年10月31日（金）13：30～14：30
場 所	南三陸町役場大会議室（B、C）
次 第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 挨拶（南三陸町長 佐藤 仁）3. 委員委嘱・自己紹介4. 会長・副会長の選出、挨拶5. 説明<ol style="list-style-type: none">(1) 復興計画見直し・次期総合計画策定の方針(2) 復興の進捗状況と住民意向(3) まちづくりの着眼点と今後の課題6. 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 総合計画審議会・作業部会の開催について7. 閉会
出 席	出席委員数10名（委員の過半数に達しており、第1回南三陸町総合計画審議会が開催された。）
決定事項	<p>●会長・副会長の選出 『南三陸町総合計画審議会条例』第5条に基づき、委員の互選により、総合計画審議会会長が選出された。また、会長の推薦により、副会長が選出された。</p> <p>会長：佐々木憲雄委員 副会長：及川吉則委員</p> <p>●総合計画審議会・作業部会の開催 『資料2 総合計画審議会・作業部会の開催（案）』及び作業部会委員について承認された。</p> <p>●まちづくりの着眼点と今後の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">◇南三陸にボランティアに来て、南三陸を気に入った人が職員としてきてくれた。南三陸に貢献したいという人がかなり多い。◇外部から若い人を呼び込む施策をみんなで検討する必要がある。子育のしやすさも重要である。◇改めて南三陸を見直し、ボランティアの方々が定住、結婚したというような、町の魅力をアピールしていく必要がある。 <p>●「南三陸町のこれからのまちづくり意向調査」の結果について</p> <ul style="list-style-type: none">◇若い世代の意識がどうか、分析をお願いしたい。◇これからコミュニケーションの育て方についての考え方も、今後、機会をとらえて調査をお願いしたい。◇事業の進捗状況と住民の意識の差がある。住民にも分かりやすく、情報を発信していく必要がある。 
委員の主な意見	

【結果概要】『南三陸町のこれからのかまちづくり意向調査』

広報みなみさんりく〔平成26年11月号掲載〕

ご協力ありがとうございました!

『南三陸町のこれからのかまちづくり意向調査』 調査結果の概要を報告します。

調査の目的

○南三陸町では、震災復興計画（平成23～32年度）の後半5年の取組みを包含しつつ、計画期間終了後の中長期的な将来像実現に向けた取組みを円滑に進めることができるよう、震災復興計画の見直し（次期総合計画の策定）の検討に着手します。

震災復興計画（平成32年度まで）…………復興しながら発展していく時期

次期総合計画（平成37年度まで）…………持続可能な地域社会を育てていく時期

○検討にあたり、震災復興の進捗に対する実感、将来の町のあり方や今後のまちづくりを進める上での重要な視点（課題）などについて、町民の皆様の意向を把握することを目的として、この調査を実施しました。

調査の方法

〔調査対象〕町内全世帯 5,190世帯

〔回収票〕1,146票 (回収率: 22.1%)

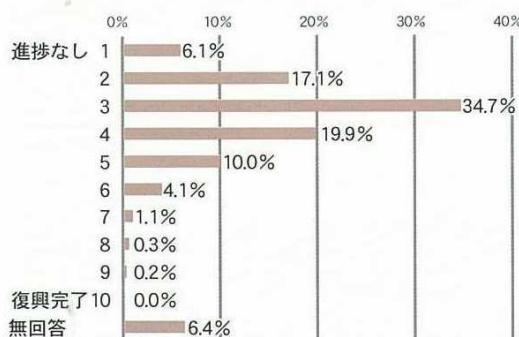
〔調査期間〕8月1日(金)～17日(日) (投函締切)

広報みなみさんりく(8月号)と一緒に全世帯に配布し、代表の方に、ご家族の意見を回答していただきました。(郵送回収)

復興の進捗とスピード

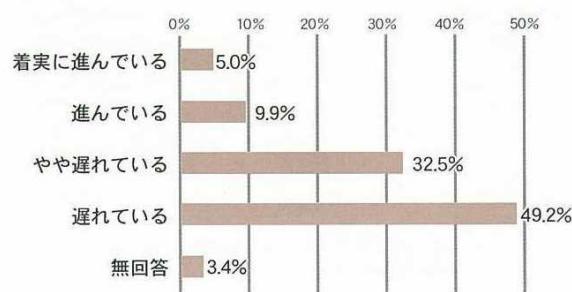
【復興の進捗】

10段階で3と感じている人が34.7%で最も多く、2～4の合計で71.7%です。



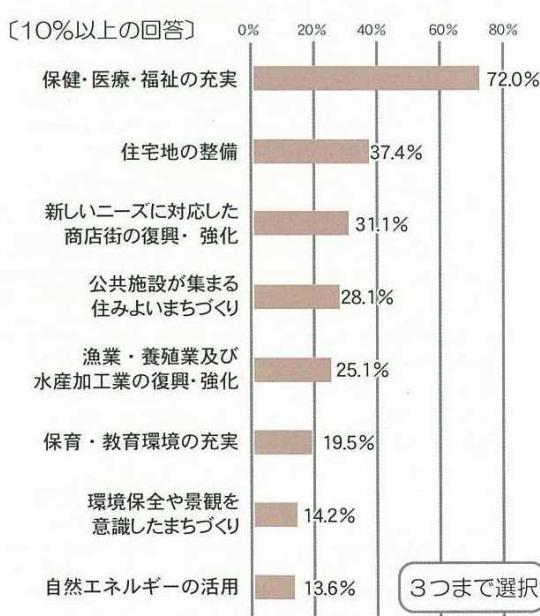
【復興のスピード】

「復興が着実に進んでいる」「進んでいる」と感じている人は、あわせて14.9%です。



復興まちづくりに望むこと

「保健・医療・福祉の充実」が72.0%と最も多く、次いで「住宅地の整備」が37.4%となっています。



～その他の選択肢～

災害記録の保存や防災教育の実施／農業や林業の復興・強化／風土・文化を活かしたまちづくり／その他

問い合わせ 企画課政策調整第1係 ☎46-1371

現在 安心して暮らすために重要なこと

「日常の買物の利便性」が重要と考えている人が59.0%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる住宅」が44.0%、「保健・医療サービス」が43.9%となっています。

[20%以上の回答]



～その他の選択肢～

地域の絆・コミュニティ／子どもの教育環境／子育て環境・子育て支援サービス／高度な情報通信の環境／公民館等の公共施設／生涯学習の機会／祭りなどの伝統文化／その他

将来 暮らし続けるために重要なこと

「医療や福祉サービス」が重要と考えている人が75.8%と最も多く、次いで「生活を支える道路や公共交通」が57.2%、「消防や救急救命体制」が47.6%となっています。

[20%以上の回答]



～その他の選択肢～

あなたがなれあいのある地域／町の魅力を最大限に活かした観光や交流／豊かな自然環境／学校教育や生涯学習機会／情報通信環境／スポーツや芸術文化活動／その他

より多くの人が定住したくなる条件

「日常の買物の利便性」が重要と考える人が最も多く、51.5%です。次いで「保健・医療サービス」「安心して住み続けられる住宅」「生活を支える職」となっています。

[20%以上の回答]



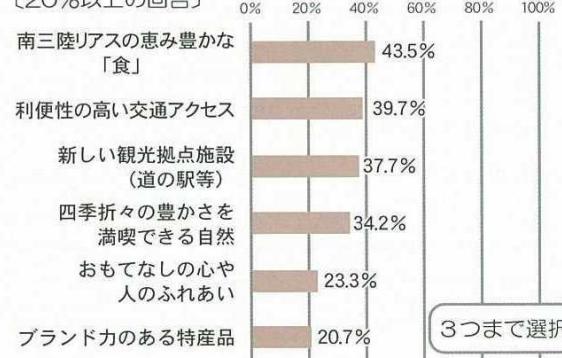
～その他の選択肢～

命を守る避難路・避難場所／子育て環境・子育て支援サービス／子どもの教育環境／地域の絆・コミュニティ／高度な情報通信の環境／祭りなどの伝統文化／公民館等の公共施設／生涯学習の機会／その他

多くの人が訪れたくなるための魅力

「南リニアスの恵み豊かな『食』」が重要と考える人が最も多く、43.5%です。次いで「利便性の高い交通アクセス」「新しい観光拠点施設（道の駅等）」となっています。

[20%以上の回答]



～その他の選択肢～

自然や産業を活かした体験交流機会／津波の教訓伝承／来訪者を守る避難路・避難誘導標識／応援ボランティア・応援自治体との継続的な交流と連携／常に新鮮な観光交流の情報／／新しい行事やイベント／祭りなどの伝統文化／歴史遺産（史跡・文化財等）／その他

今後の町政の姿勢

行政運営上、「町民と団体、行政の連携と協働」が重要とする人が19.8%となっています。次いで、「コンパクトで身の丈にあったまちづくり」が18.2%となっています。

設問	構成比
町民と団体、行政の連携と協働	19.8%
コンパクトで身の丈にあったまちづくり	18.2%
近隣市町との広域的な連携	15.9%
役場組織の効率化・合理化	14.2%
創意あふれる役場職員の育成	11.3%
民間の経営手法を取り入れた行政サービス	8.3%
限られた財源での施策・事業の選択と集中	6.9%
町が行う施策・事業の成果の評価と改善	5.5%
その他	4.9%
無回答	4.8%

回答してくださった皆様

[居住地] 志津川と歌津は、それぞれ30%前後、戸倉、入谷、登米市内がいずれも10%前後

[被災状況] 住まいに被害のあった方が68.6%

[年齢] 家族の代表で回答いただいた方の年齢は、60代の方が29.9%と最も多く、50代が24.8%

[今後の居住] 今後、南三陸町内に住みたいと回答している方は78.5%

[今後の就業] 今後、南三陸町内で働きたいと回答している方は59.6%（主に生計を担っている方）

分析①

安心して暮らしを再開するために、 住民が復興まちづくりに望むこと、現段階の課題について

◇復興まちづくりに望むこと・・・最上位は「保健・医療・福祉の充実」

⇒「保健・医療・福祉の充実」を望む割合が 72.0%と最上位に挙げられている。「保健・医療サービス」は現段階の課題としても上位に挙げられている。

◇現段階の課題・・・最上位は「日常の買い物の利便性」

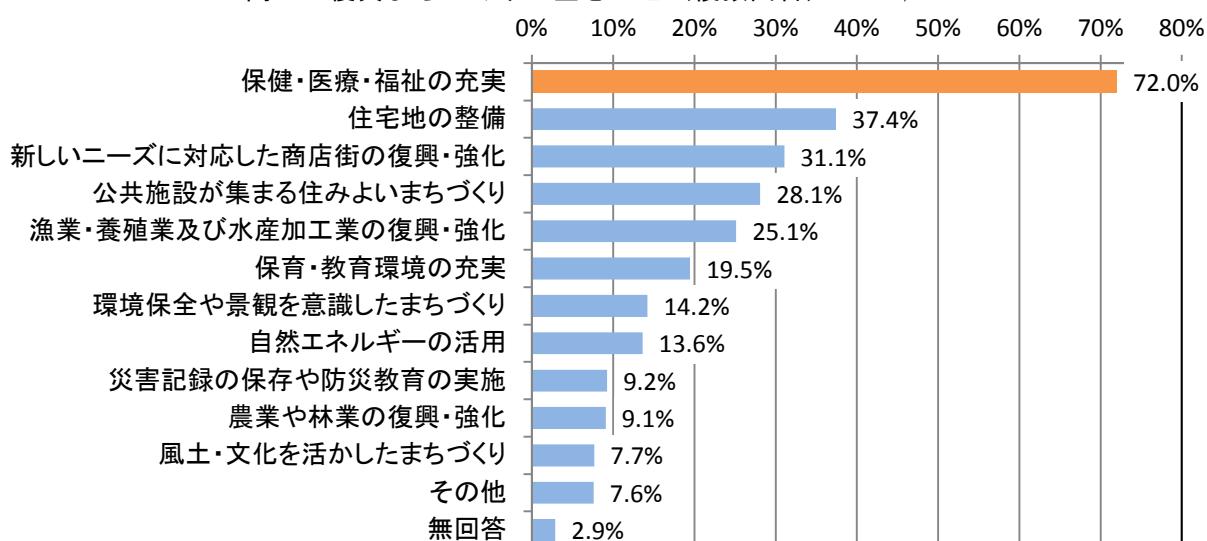
⇒被害の有無や家族構成に関係なく「日常の買い物の利便性」が最上位に挙げられており、スーパーの出店を望む声が多くなっている。

◇住まいに被害を受けた世帯・・・「住宅地の整備」や「安心して住み続けられる住宅」

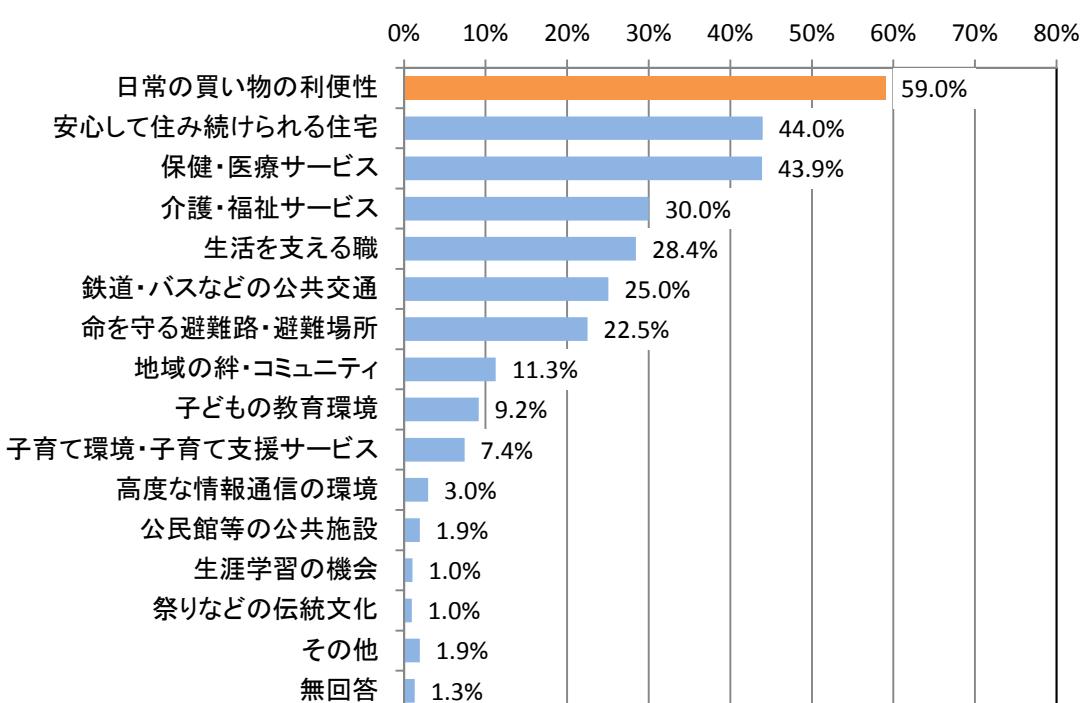
◇自由意見

⇒早期の住宅再建や居住環境の整備を望む回答が多くみられる。

問5 復興まちづくりに望むこと（複数回答） N=1,146



問8 現段階の課題について（複数回答） N=1,146



◇家族構成別の傾向〔高齢者のみ家族〕〔14歳以下の子どもがいる家族〕〔その他の家族〕

●共通

復興まちづくりに望むこと：「保健・医療・福祉の充実」、「住宅地の整備」

現段階の課題：「日常の買い物の利便性」、「保健・医療サービス」、「安心して住み続けられる住宅」

●高齢者のみの家族で上位に上がっている事項（比較的回答割合が高い項目）

復興まちづくりに望むこと：「公共施設が集まる住みよいまちづくり」

現段階の課題：「介護・福祉サービス」「鉄道・バスなどの公共交通」

●14歳以下の子供がいる家族（比較的回答割合が高い項目）

復興まちづくりに望むこと：「保育・教育環境の充実」

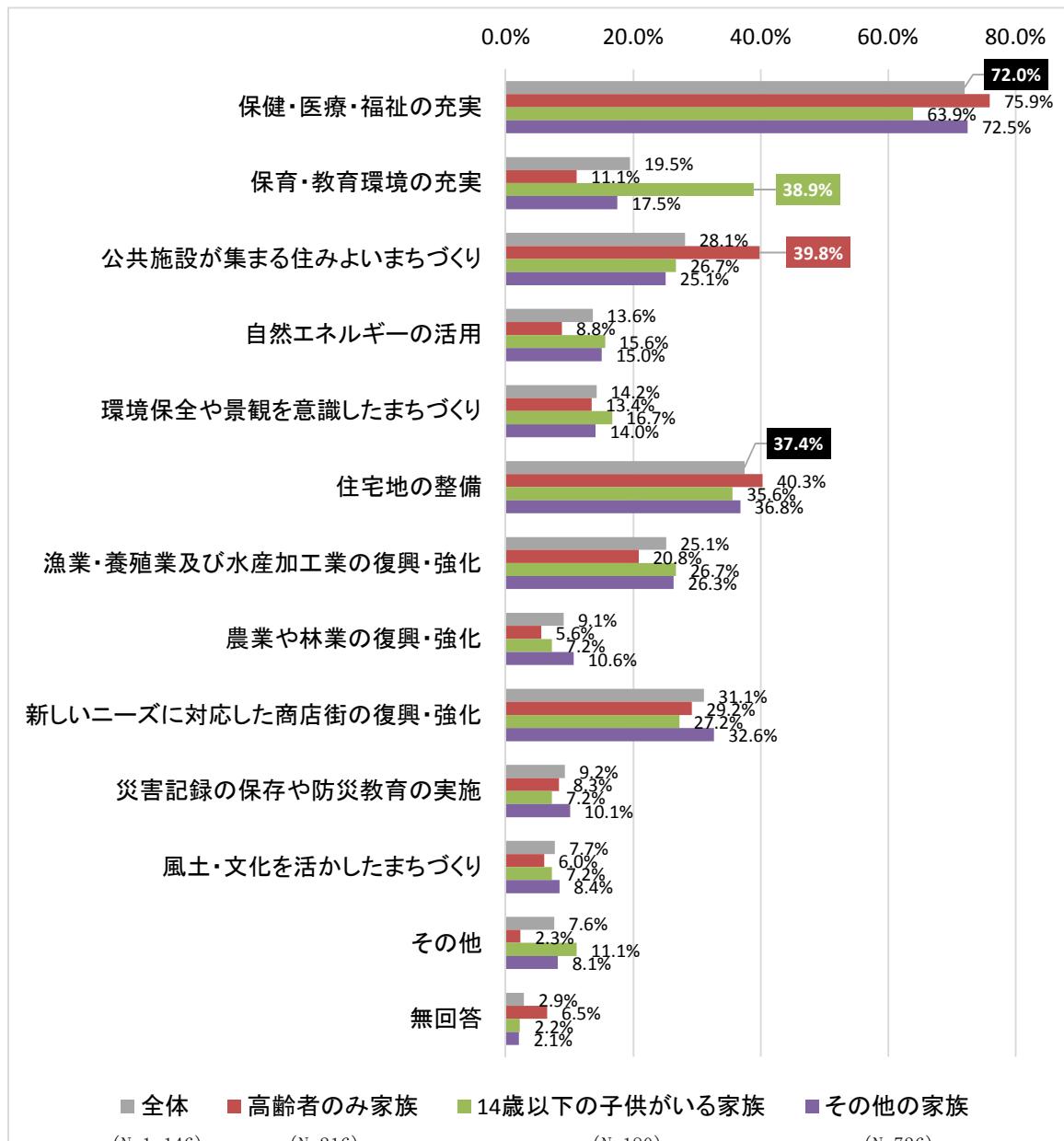
現段階の課題：「子どもの教育環境」「子育て環境・子育て支援サービス」

●その他の家族（比較的回答割合が高い項目）

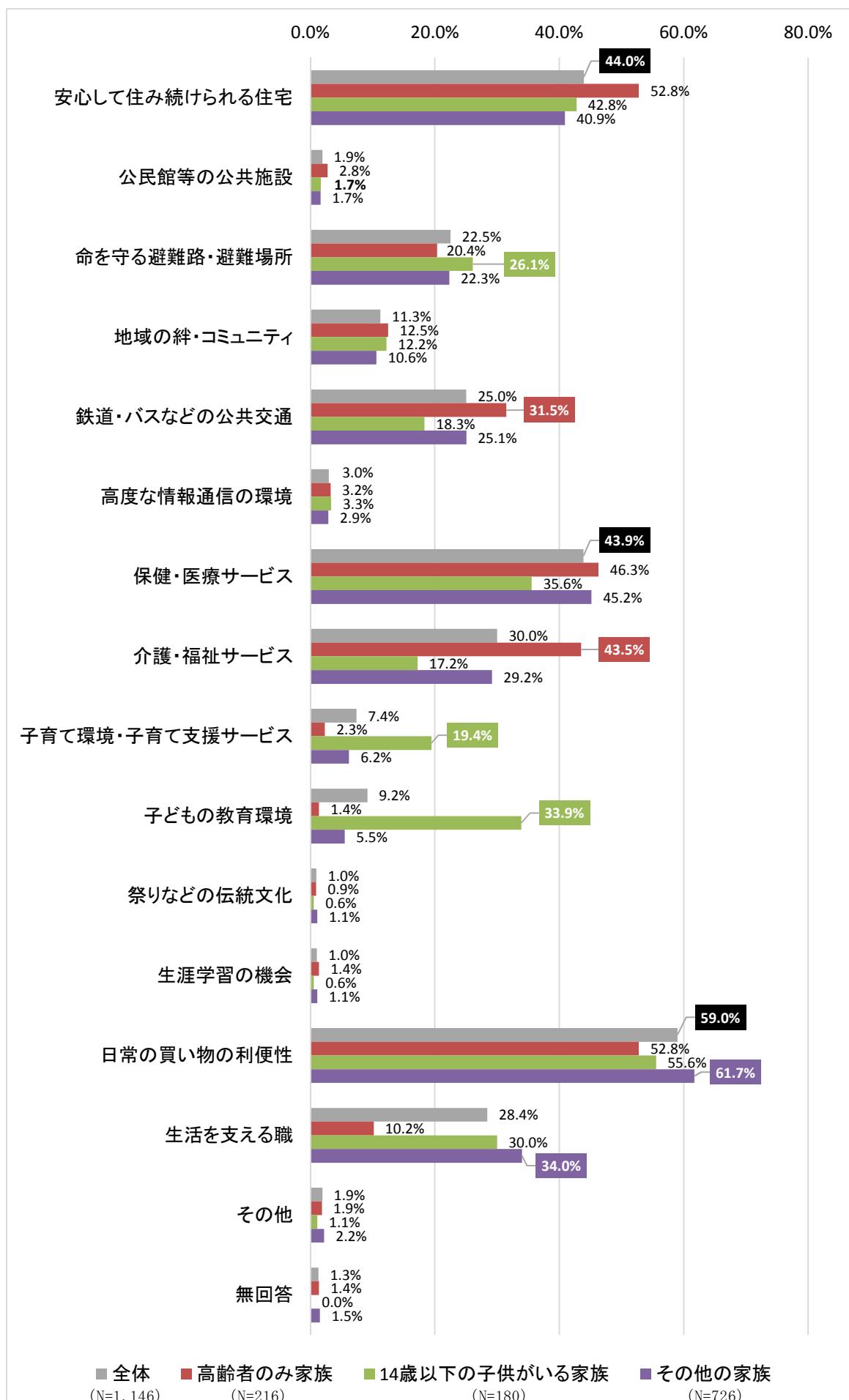
現段階の課題：「日常の買物の利便性」「生活を支える職」

◇その他・・・「若い世代が住みたい町」「（若い世代の）働く場所の確保」など

問5 復興まちづくりに望むこと（複数回答）【家族構成別】



問8 現段階の課題について（複数回答）【家族構成別】



分析②

安心して暮らし続けるための、将来の課題について

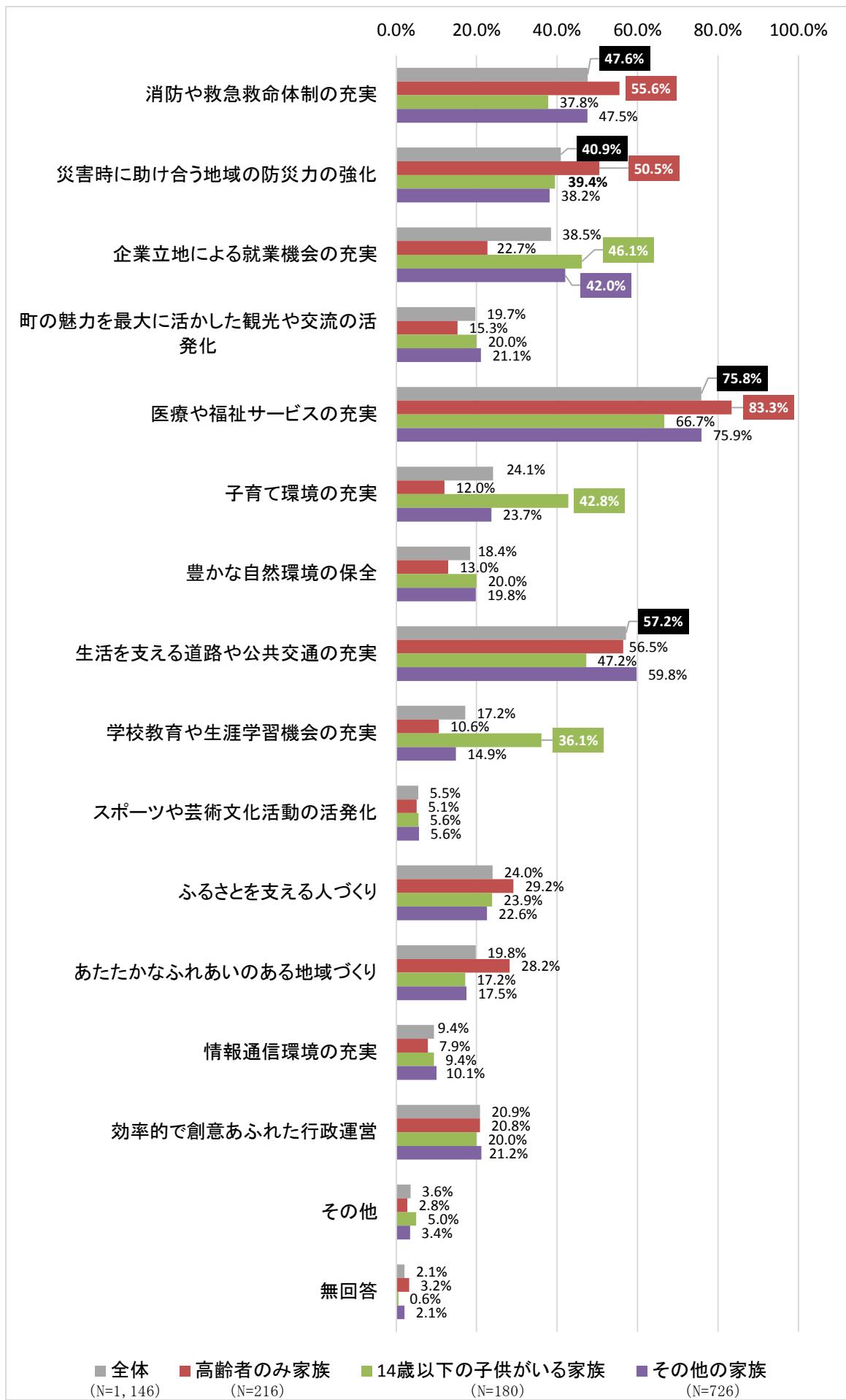
◇将来の課題・・・最上位は「医療や福祉サービスの充実」。次いで「生活を支える道路や公共交通の充実」、「消防や救急救命体制の充実」、「災害時に助け合う地域の防災力の強化」

- ⇒ 「医療や福祉サービスの充実」を望む割合が 75.8%と最上位に挙げられている。現段階での課題と同様に医療や福祉の充実への要望が高くなっている。
- ⇒ 自由意見でも「高齢化に対応する介護・福祉の充実」、「貴重な子供達の医療体制の充実」、「産婦人科から、墓地の整備まで安心で長命長寿の出来る街づくり」など、あらゆる年齢層に対応したサービスの充実を求める声が挙がっている。
- ⇒ 「生活を支える道路や公共交通の充実」を望む割合も 57.2%となっており、自由意見でも生活道路の整備や高齢者や学生のための鉄道・バスなど公共交通の充実を求める声が挙がっている。
- ⇒ 「消防や救急救命体制の充実」や「災害時に助け合う地域の防災力の強化」を望む割合もどちらも 40%を超えており、災害に強いまちづくりを求める声が多く挙がっている。

◇高齢者のみを除く世帯・・・比較的多い回答は「企業立地による就業機会の充実」

◇14歳以下の子供がいる世帯・・・比較的多い回答は「子育て環境の充実」「学校教育や生涯学習機会の充実」

問9 将来の課題について（複数回答）【家族構成別】 N=1,146



分析③

復興の進捗度・スピードについて

◇復興の進捗度・・・最上位は、10段階評価で「3」

⇒10段階評価で「3」を挙げる世帯が最も多く34.7%となっている。また、「2」～「4」を挙げる世帯の合計は71.7%となっている。

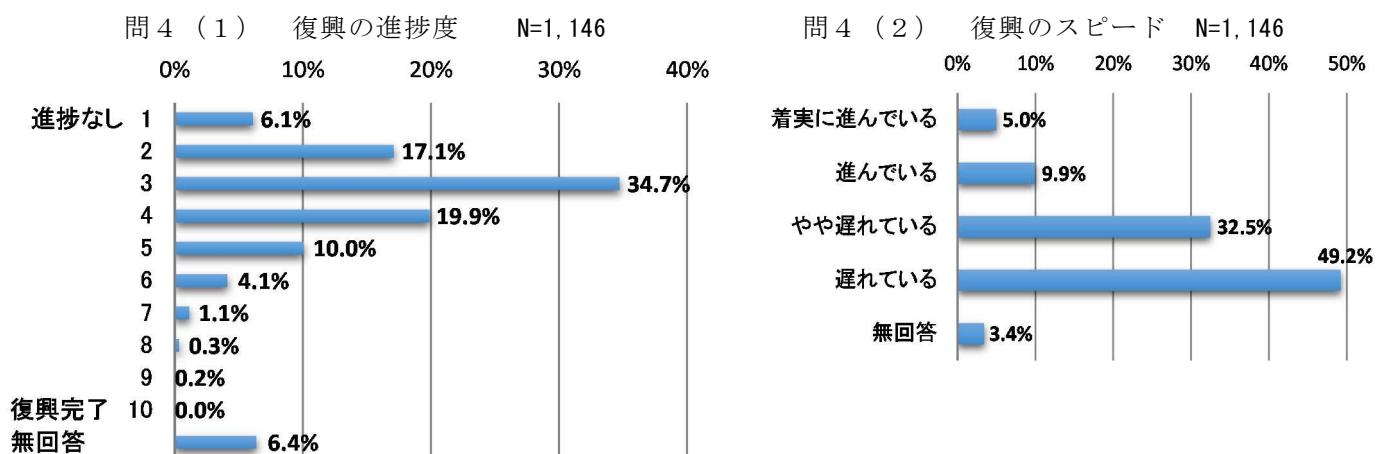
◇復興の進捗度・・・「やや遅れている」「遅れている」の回答が8割程度

⇒「着実に進んでいる」・「進んでいる」を挙げる世帯が合わせて14.9%、「やや遅れている」・「遅れている」を挙げる世帯が合わせて81.7%となっている。

◇復興が復興が遅れていると感じる理由

⇒「高台移転や仮設住宅からの移転が進んでいないから」、「道路・漁港・農地・防潮堤・交通機関などが整備されていないから」、「かさ上げや宅地造成が終わっていないから」といった意見が挙げられている。

⇒他地区に対して遅れているという意見もみられた。



問4(3) 復興の進捗度・スピードについて自由意見

復興が進んでいると感じる理由	件数	復興が遅れていると感じる理由	件数
かさ上げや宅地造成が進んでいるから	41	高台移転や仮設住宅からの移転が進んでいないから	73
道路や公共施設が整備されてきたから	23	道路・漁港・農地・防潮堤・交通機関などが整備されていないから	71
景観が変わったから	13	かさ上げや宅地造成が終わっていないから	68
住宅が建ち始めたから	11	生活に必要な施設(スーパー、病院など)が出来ていないから	54
がれきの処理が終わったから	3	災害公営住宅の整備や住宅の建築が進んでいないから	44
広報や人から聞いた様子で	2	景観が変わっていない(さびしい)から	22
その他	12	町外への人口流出が進んでいるから	17
		他市町村・他地区と比較して進んでいないと感じるから	15
		計画通りに進んでいないから	13
		漁業・農業が復活していない、職場が無いから	7
		その他	104

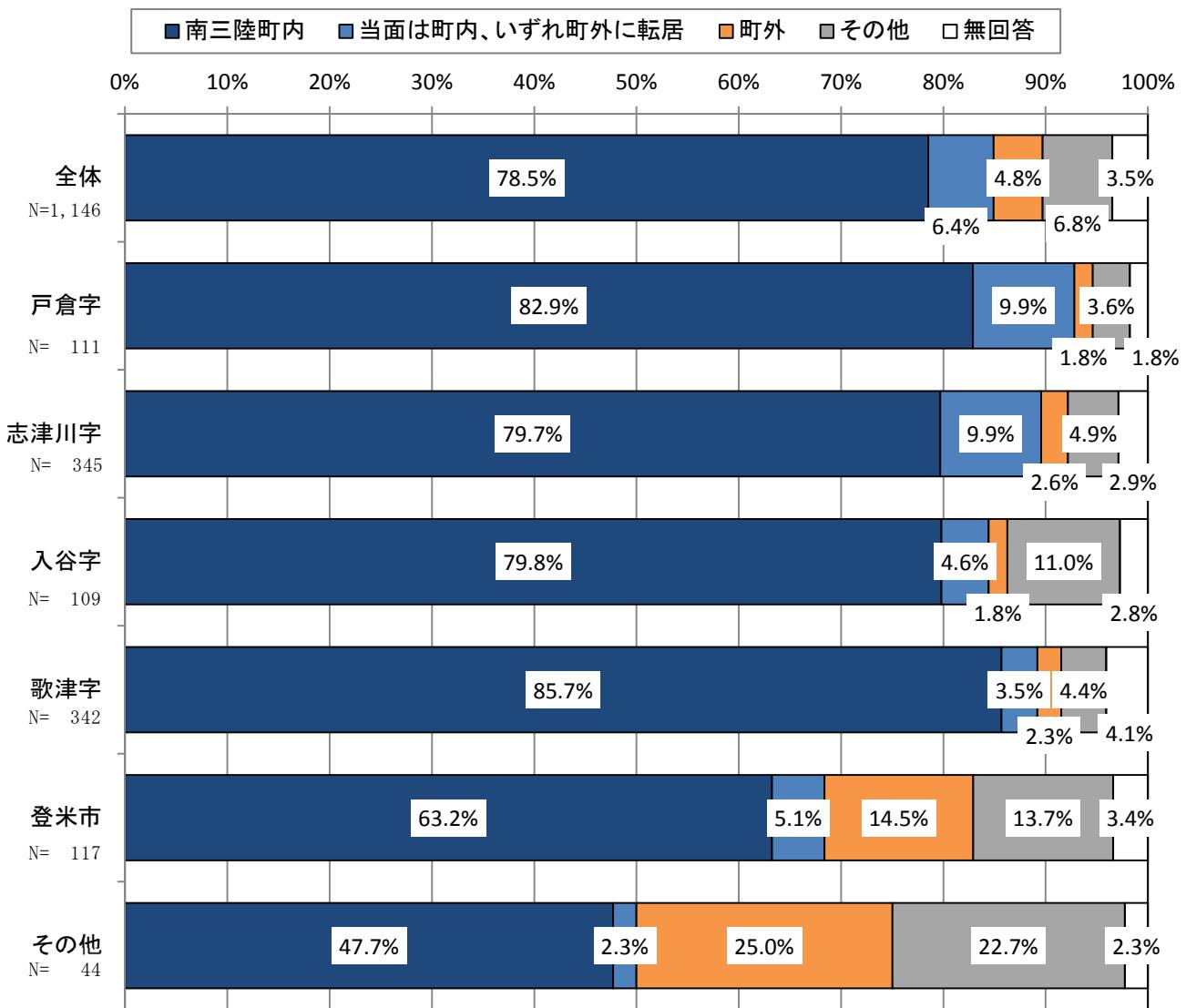
分析④

今後の居住場所の意向について

◇今後の居住場所について

- ⇒今後の居住場所としては、現在町内に居住している世帯の 80%前後が「町内に住みたい」と回答している。
- ⇒町外居住者ではその割合は比較的少なく、「町外に住みたい」と回答する世帯の割合が多くなっている。

問 6 今後の居住場所の意向



(2) 第1回総合計画審議会・作業部会の開催概要

平成26年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第1回）	
日 時	平成26年11月17日（月）18：00～19：30
場 所	南三陸町役場大会議室（B、C）
次 第	<ol style="list-style-type: none">1 開会、挨拶2 委嘱状の交付3 委員紹介・挨拶4 説明事項（復興計画の見直し・次期総合計画の策定について）5 議事（町の現状と社会潮流について）6 連絡事項（第2回作業部会の開催について）7 閉会
出 席	出席委員数9名
検討結果 概要	<p>●作業部会の検討の進め方について（確認事項）</p> <p>◇はじめは委員10名でスタートする。今後、必要に応じて推薦をいただきながら増員することも考える。</p> <p>◇素案を作る段階から、委員各自の立場から、町民目線に基づく町の将来像を描き、まちづくりの大きな方向性を検討していく。</p> <p>⇒10年後も南三陸町として持続していくことを前提として検討</p> <p>⇒作業部会の検討成果を総合計画審議会に報告</p> <p>⇒作業部会では、町民目線で検討した町の将来像やまちづくりの方向性を検討し、これふまえて、町で具体的な施策・事業の展開を検討する</p> <p>◇基本的には、委員個々の自由な意見を出し合いながら、作業部会の成果としてまとめ、可能な部分を基本構想・基本計画の案に反映させていく。</p> <p>◇11回の検討の中では、総合計画のすべての分野を詳細に検討することは難しいため、基本構想・基本計画に関しては、町から検討のポイントを明確にした資料を提示しながら、的を絞った検討を行う。</p> <p>◇震災復興計画推進会議の提言が施策・事業につながるよう、計画への反映に留意する。</p> <p>●検討に際しての重要な視点について（主な意見）</p> <p>～人口減少（流出抑制）と超高齢化の問題について～</p> <p>◇人口減少社会にあって、人口が少なくても成立するような地域社会のあり方・仕組みを考えること、今から準備できることが重要である。</p> <p>＜関連する意見＞</p> <p>⇒1年後には高速道路のインターチェンジが整備される。人口流出の抑制に関しては明日、明後日の問題として早急に検討する必要がある。</p> <p>◇将来の人口構成を変えていけるような施策・事業に重点をおくべきである。</p> <p>◇超高齢社会の先進地としてビジョンを描くことが希望につながる。そういうものを町民意識として共有すべきである。</p> <p>◇今、何が必要なのか、という視点も重要である。高齢者たちが住みよい町になることをまず検討すべきである。</p>

**検討結果
概要**

～総合計画のつくり方について～

◇イラストなどを活用しながら、子どもが未来をイメージできる分かりやすい計画、高齢者にも読みやすい計画をつくるべきである。

<関連する意見>

⇒子どもたちに町の未来予想図を見てもらって意見を聞くような機会があるとよい。

◇計画のベースとして子どもたちの意見が反映されていることが大切である。

子どもたちの意見を集約して伝えていただく立場として、学校の先生などを作業部会に参画していただくことも必要である。

●第2回作業部会の開催について

日 時：平成26年12月17日（水） 18：00～

議 題：町の将来像（目標像）

<委員個別の事前検討> 個人や家族などの視点から描く将来像の検討
(将来像検討シートの記入)

<関連する意見>

⇒町民の目線で将来像を描くことが大切である。ものがたりを描いて、町民が主人公であることを意識してビジョンを描いていくのは重要なことがある。